

正則保型形式について

庄司幸弘

東北大学・大学院理学研究科・数学専攻・博士課程前期(2年)

- 正則保型形式とは？
→豊富な対称性を備えた正則関数(存在そのものが奇跡と
いってよい).
- 整数論, 幾何学, 解析学の交差点によく登場する.
- フェルマーの最終定理の証明に重要な役割を果たした：
$$n \geq 3, x^n + y^n = z^n, x, y, z \in \mathbb{Z} \Rightarrow xyz = 0$$

1 準備

- $SL_2(\mathbb{Z}) := \left\{ \gamma = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \mid a, b, c, d \in \mathbb{Z}, ad - bc = 1 \right\}$
- $\mathbb{H} := \{ \tau = x + yi \mid x, y \in \mathbb{R}, y > 0 \}$ (i は虚数単位)

乗法群 $SL_2(\mathbb{Z})$ は \mathbb{H} に一次分数変換として作用する：

$$\gamma\tau := \frac{a\tau + b}{c\tau + d}$$

- 正整数 N に対し

$$\Gamma_0(N) = \left\{ \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in SL_2(\mathbb{Z}) \mid c \equiv 0 \pmod{N} \right\}$$

とおく． ($N = 1$ に対し, $\Gamma_0(1) = SL_2(\mathbb{Z})$ となる．)

2 保型形式とは？

定義 k を整数とする. \mathbb{H} 上の正則関数 (すなわち, \mathbb{H} の各点で複素微分可能な関数) f であって, 次の2つの条件を満たすものを $\Gamma_0(N)$ に関する重さ k の保型形式という:

(1) 任意の $\gamma = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in \Gamma_0(N)$ と $\tau \in \mathbb{H}$ に対し,

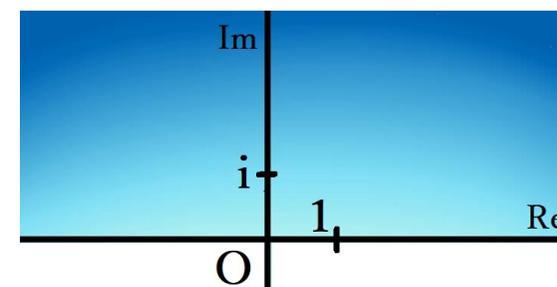
$$f(\gamma\tau) = (c\tau + d)^k f(\tau)$$

を満たす.

(2) 任意の

$\alpha = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in SL_2(\mathbb{Z})$ に対し, 極限

$\lim_{\tau \rightarrow i\infty} (c\tau + d)^{-k} f(\alpha\tau)$ が収束する.



複素上半平面 \mathbb{H}

3 具体例

$\tau \in \mathbb{H}$, $q = e^{2\pi i\tau}$ とする.

- (アイゼンシュタイン級数) 4以上の偶数 k に対し

$$G_k(\tau) = 2\zeta(k) + 2 \frac{(2\pi i)^k}{(k-1)!} \sum_{n=1}^{\infty} \sigma_{k-1}(n) q^n, \quad q = e^{2\pi i\tau}$$

$$\left(\zeta(k) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^k}, \quad \sigma_{k-1}(n) = \sum_{m>0, m|n} m^{k-1} \right)$$

は $SL_2(\mathbb{Z})$ に関する重さ k の保型形式を定める.

- (エータ積) $\tau \in \mathbb{H}$ に対して

$$\eta(\tau) = q_{24} \prod_{n=1}^{\infty} (1 - q^n), \quad q_{24} = e^{\frac{2\pi i\tau}{24}} \text{ と書く.}$$

$$\Delta(\tau) = \eta(\tau)^{24} = q - 24q^2 + 252q^3 - 1472q^4 + 4830q^5 - 6048q^6 + \dots$$

とおく. Δ は $SL_2(\mathbb{Z})$ に関する重さ 12 の保型形式を定める.

4 保型形式のなす空間

- $M_k(\Gamma_0(N))$
:= $\{\Gamma_0(N)$ に関する重さ k の保型形式 $\}$
- $k, \ell \in \mathbb{Z}$ に対し, $f \in M_k(\Gamma_0(N))$ と $g \in M_\ell(\Gamma_0(N))$ の積 fg は重さ $k + \ell$ の保型形式を定める.
- $M_*(\Gamma_0(N)) = \bigoplus_{k \in \mathbb{Z}} M_k(\Gamma_0(N))$ は和と積を備えた次数付き環になる. モジュラー曲線 $\Gamma_0(N) \backslash \mathbb{H}$ の代数幾何的構造を反映している数学的対象.
- 修士論文では $M_*(\Gamma_0(N))$ が重さの低い保型形式で生成されることを示し, 生成元を具体的に記述した.